

はじめに

特定領域研究「古典学の再構築」(平成10年度～14年度)は、本年4月に公募研究が確定し、計画・公募の専門研究およびそれらを連携させる調整班研究と総括班研究を含め、全研究を開始した。現在、計画研究39件、公募研究44件の合計83件の研究課題に、138人の研究者が取り組んでいる。

特定領域全体の発足に当たり、「古典学の再構築」の目標を再確認しておきたい。それは次の2目標である。

- (1) 異なる領域の諸古典学の共同研究に基づき、新しい「古典学」および「古典像」を創造すること。
- (2) その成果を古典学の他分野と、一般社会に公開すること。

19世紀初頭、西欧においてギリシャ・ローマ古典を対象に確立された近代文献学の方法論は、まもなくイスラム学、聖書学、インド学、中国学、チベット学、日本学などに適用され、諸分野において近代古典学が成立した。しかしこれら諸学は現代に至るまで、方法論を共有しつつも組織的交流を行うことはなかった。

本特定領域の第1の目標は、成立以来2世紀近くを経た近代古典学の歴史上、初めて諸古典学の全体的交流を行うことによって、(a) たがいに方法論的刺激を受けつつ新しい標準的方法論を模索し(「新しい古典学」の創造)、また、(b) 諸古典を客観的に位置付け、新しい価値を発見しつつ再評価する(「新しい古典像」の創造)ことである。

もちろん古典の十全な理解には、高度の語学的訓練と、文明に関する膨大な知識が必要である。そのゆえに従来古典学者は原則として分野内部の研究に専念してきた。しかし、古典学諸分野の研究者が連携し、古典学のうちに潜む近代西欧的価値観を見直しつつ方法論や読解内容を再検討し、また近年進展した高度情報処理技術を活用するならば、各領域において古典研究の新方法が形成され、古典の理解は一層深まることになるだろう。

さらに、異分野の古典研究者がたがいに直接語り合い、諸文明の古典の理解を深めることによって視野を広くするならば、古典の新しい位置付け、新しい存在意義の発見も可能となるのではなからうか。

本特定領域の第2の目標は、社会に対する研究成果の公開である。上に述べたような「新しい古典学」、「新しい古典像」を現代日本に提示することは、日本人の一層堅実な教養の形成に貢献するだろう。

本特定領域はこれまで、4号を数えるニューズレターと2度にわたる公開シンポジウムによって、いわば出発地点と目標を確認した。今後は、各調整班において共同研究が深められ、その成果が徐々に現れるものと期待される。ニューズレター、公開シンポジウムを継続し、成果を広く公開すると同時に、最終的には、『講座古典学』、『古典選集』、『古典参考書』(仮称)などを編纂して出版する予定である。

新しい日本文化の形成に幾分たりとも貢献するため、本特定領域の基盤をなす異分野共同研究に、各位が積極的にご参画下さるよう、重ねてお願い申し上げます。

平成11年9月12日

領域代表 中谷 英明